

[横浜市陶芸センター]
 平成 27 年度業務計画及び収支予算
 [シンリュウ(株)]

1 施設の概要

施設名	横浜市陶芸センター
所在地	横浜市中区本牧三之谷 59-3
構造・規模	木造平屋建て及び登り窯 1 棟(別棟)
敷地・延床面積	延床面積 396㎡、登り窯延床面積 60㎡
開館日	平成 5 年 8 月

2 指定管理者

法人名	シンリュウ 株式会社
所在地	埼玉県朝霞市上内間木 514-2
代表者	小澤 忠
設立年月日	平成 2 年 4 月 26 日
指定期間	平成 23 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

3 指定管理に係る業務方針

(1) 基本的な方針

【指定管理期間中の使命】

横浜市陶芸センターの使命は、横浜市における作陶活動の拠点施設として、広く市民が陶芸に親しむ機会を提供するとともに、市民の作陶技術向上の支援を行うことにより、陶芸の普及を図ることである。加えて、陶芸を通じて、市民文化の振興及び文化芸術が持つ創造性を活かした魅力あるまちづくりに寄与することである。この使命を達成するため、以下五つの方針のもと運営を行う。

- ①陶芸の普及と市民の作陶技術向上を支援する。
- ②市民の主体的な作陶活動を支援する。
- ③市内の公益的作陶活動を支援する。
- ④陶芸と市民とを結びつける場とする。

⑤ 持てる資源を最大限に活用した取り組みを行う。

【業務取組の基本的な考え方】

利用者の増加に伴い限りあるスペースを最大限に活用する努力と、安定的管理運営を大前提とし、横浜市陶芸センターの新しいあり方として、「陶芸文化の発信役」をさらにすすめる。そのためのテーマは次の通り。

- ① 利用者へのサービスを、もっと向上する。
- ② 陶芸知識の基地化を、もっと推進する。
- ③ 地域に、もっと開放する。
- ④ 環境を、もっと意識する。

(2) 27年度の業務の方針及び達成目標

【全体業務について】

自主事業教室の利用者の増加に備え、作品収納スペースの確保と改善が課題と思われます。また、受講率の低迷している初心者のための体験講座等を、誰でも気軽に体験できるようにカリキュラムを見直し、また増加が予想される外国人利用者のための日本人講師の英語による陶芸講座や、日本在住の外国人陶芸作家の講座の開催、伝統工芸以外の作家による陶土を使用する現代美術作家の作品紹介と解説等、今までの講座とは、違った切り口のテーマでの陶芸知識の向上を目指す。

① 事業について

- ・ 体験型教室、基礎教室、自主型教室、専門技能習得教室、公益的作陶支援教室の各教室について、内容の質を高めながら、確実に実施する。
- ・ 各教室の受講率を高めることにより、より多くの事業収入を目指す。
- ・ 一日体験教室を改善強化し、陶芸未経験者及び初心者の受講者を増やすことにより、次世代のリピーターとして、今の団塊の世代後の安定した利用者として意識する。
- ・ 本牧市民公園との連携等により、陶芸祭の内容をさらに充実させ、一般市民にもアピールする。

② 運営について

- ・ 適切な施設運営のため、年間 356 日の開館とし、利用者の便宜を図り利用促進を進める。
- ・ 貸室及び自主事業の利用者数について、26 年度目標の 7.9% 増 18,750 人を目指し、安定的維持拡大を図る。
- ・ 陶芸祭、招聘作家による講演、陶芸ライブラリー、実演イベント等を通してして陶芸知識の拡散、拡大、専門化を図る。

③ 管理について

- ・ 施設、設備等の適切な管理のため、点検等を確実にを行うとともに、修繕が必要と思われる箇所の洗い出し、検討を行い、対応し、陶芸センター内で出来る修繕は、出来る限り行う。
- ・ 柵の増設、改修後の汚泥量調査を引き続き実施し、適切な汚泥管理、環境維持に努める。

⑤ その他について

- ・ 日報、月報、業務計画書、業務報告書を作成・管理するとともに、自己評価を行い、業務改善につながるよう努力する。
- ・ 法令の遵守、個人情報保護、情報公開について、適切に対応するとともに、横浜市との連絡調

整を密にし、円滑な業務遂行を目指す。

4 業務の取組と達成指標

(1) 事業について

ア 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援について

[取組内容]	[達成指標]
①体験型教室の開催	①●□一日体験教室を年間16回開催する。目標利用者数360人 ●□一日電動ロクロ体験を10回開催する。目標利用者数140人 ●□親子陶芸教室を年間18日開催する。目標利用者数700人 ●□陶芸祭期間中、手びねり体験、ロクロ体験、楽焼の教室を4日開催する。目標利用者数170人
②基礎教室の開催	②●□手びねり初級教室を年間3回、24日開催する。目標利用者数500人 ●□手びねり中級教室を年間3回、24日開催する。目標利用者数580人 ●□電動ロクロ初級教室を年間3回、21日開催する。目標利用者数450人 ●□電動ロクロ中級教室を年間3回、21日開催する。目標利用者数400人
③自律型教室の開催	③●□自由作陶教室を年間350日開催。目標利用者数7,600人 ●□第2自由作陶教室を年間48日開催。目標利用者数1,400人

イ 市民の主体的な作陶活動の支援について

[取組内容]	[達成指標]
①専門技能習得教室の単発講座の開催	①●□専門技能習得講座として、電動ロクロ水挽き徹底教室を年間3回、12日、絵付け教室を年間2回、6日、特定のやきもの作り教室を年間2回、8日開催する。目標利用者数500人
②多くのテーマの講座の企画、実施	②●基本となる酸化焼成の他に、還元焼成、上絵付け焼成、サヤ鉢焼成、楽焼焼成など各種の焼成も、別途講座にて実施する。 ●□普段の作品サイズ制限を超えた大物が焼成できる、大物焼成講座を、月2名ずつ、毎月開催する。 ・そのほか利用者の要望等も考慮しながら、単発講座を企画し、できるだけ実施できるよう努める。
③作品発表の機会の提供	③●□利用者の作品発表の場として、陶芸祭時に作陶展を年1回開催する。

ウ 市内の公益的作陶活動に対する支援について

[取組内容]	[達成指標]
①陶芸指導者対象の研修講座の開催	①●□小中高校の陶芸担当指導者のための研修講座を年1回開催する。目標利用者数20人
②市民団体等への団体教室の開催	②●□各団体の作陶要望に応じて個別教室を設定し、団体教室として年10件以上実施する。目標利用者数480人
③公益的作陶活動に対する情報提供等による支援	③□小中高校に対し、研修講座の案内のほか施設紹介や陶芸祭等の情報を、年1回DMにて提供する。 □学童保育を中心に年1回DMを実施し、団体教室の案内のほか施設紹介等の情報を提供し、施設の利用促進を図る。 ・学校をはじめ作陶活動を行っている団体、個人からの、相談あるいは出張教室等の要望があった場合は、適切に対応する。

エ 陶芸と市民とを結びつける場について

[取組内容]	[達成指標]
①気軽に参加できる教室の開催	①・陶芸が初めての方を対象に、手びねり・絵付け・ロクロ体験ができる一日体験教室を開催する。より多くの人に陶芸体験をしてもらうため、従来からの、予約なし・飛び込み参加にも対応する体制は継続し、さらに、PR活動も強化する。
②市民が興味を持つイベントの開催	②・陶芸祭の開催により、一般の来館者を増やすことで、施設の周知を図る。期間中は体験教室を開催し、だれでも土に親しめる機会を提供するほか、本牧市民公園秋祭りの同時開催等、本牧市民公園や三溪園との連携を図り、市民が気軽に参加できる仕組み作りをすることにより、陶芸祭のさらなる充実を図る。
③市民の目に触れる情報の発信	③・陶芸祭を核にした広報、広告活動を展開し、集客増を図る。また、地元自治会の協力を得られるよう、アプローチを図る。

オ 持てる資源を最大限に活用した取り組みについて

[取組内容]	[達成指標]
①登り窯施設の活用	①・登り窯を、見学用施設として活用するほか、各講座案内パネルを掲出するなど、公園利用者に対して施設の周知を図る。 ・登り窯を施設の象徴的扱いとし、印刷物等で施設紹介する際には、登り窯の写真も掲載する。
②登り窯に関連付けた穴窯焼成講座の実施	②・穴窯の焼成体験、焼成後の窯出し体験等普段体験が難しい講座に積極的に参加してもらい焼き物の原点を体験してもらう。

(2) 運営について

ア 作陶活動のための施設の提供について

[取組内容]	[達成指標]
①適切に施設を開館する	①□開館について

	開館日数	356日									
	開館時間	9時～17時									
②適切に利用料金設定を徴収する	<input type="checkbox"/> 休館日 9日（休館日：清掃・空調機点検 2日、電気点検 1日、年末年始 6日） <input type="checkbox"/> 開館時間、休館日については、館内掲示やホームページ等で周知を図る。										
	② <input type="checkbox"/> 利用料金について	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>午前</td> <td>午後</td> <td>一日</td> </tr> <tr> <td>陶芸成形室</td> <td>500円</td> <td>500円</td> <td>1000円</td> </tr> </table>				午前	午後	一日	陶芸成形室	500円	500円
	午前	午後	一日								
陶芸成形室	500円	500円	1000円								
③貸室による自由な作陶機会、場の提供	<input type="checkbox"/> 焼成料（酸化焼成）は、焼成前の粘土 100gまでごとに 100円										
	③ <input type="checkbox"/> 貸室稼働率 98%（利用日数 350日/開館日数 356日）	<input type="checkbox"/> 貸室目標利用者数 5,400人 <input type="checkbox"/> 貸室目標利用料収入（酸化焼成料含む） 4,200,000円									

イ 利用促進及び利用者サービスの向上について

[取組内容]	[達成指標]
①施設の利用促進、効果的な広報・宣伝活動	<input type="checkbox"/> ①講座スケジュールガイドを年 2 回作成し、PRボックスにて配布するほか、広報ツールとして活用する。 <input type="checkbox"/> ②すべての講座について、募集チラシを作成、館内にて配布する。 <input type="checkbox"/> ③陶芸祭チラシを年 1 回作成し、PRボックスでの配布、新聞折り込み広告、DM等で活用する。 ・市の刊行物、フリーペーパー、一般紙誌、陶芸誌等のメディアへの情報提供により、記事掲載を推進する。
②利用者サービス向上の取組	<input type="checkbox"/> ②貸出用小道具を配置し、必要な方には無償で提供する。 <input type="checkbox"/> ③すべての講座の利用者に対し、アンケートを実施し、満足度及び利用者ニーズ等を把握し、今後の運営に反映させる。
③ホームページの作成と運用	<input type="checkbox"/> ③講座案内の年度切り替えのほか、新着情報欄を月 1 回以上更新し、最新の情報を案内する。 ・ホームページの作品ギャラリーをより充実させ、陶芸祭人気作品集、全国公募展作品集のほか、利用者の作品紹介等身近なメディアとして活用する。

ウ 組織的な施設運営について

[取組内容]	[達成指標]									
①適切な人材の配置を実施	<input type="checkbox"/> ①人材の配置について									
	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>人数</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>センター長</td> <td>1人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>所長</td> <td>1人</td> <td>事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務</td> </tr> </table>	項目	人数	備考	センター長	1人		所長	1人	事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務
項目	人数	備考								
センター長	1人									
所長	1人	事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務								

②適切かつ効果的な勤務体制の確立	社員	2人	一部講師・貸室アドバイザー兼務
	事務員	2人	ローテーション勤務
	講師	9人	ローテーション勤務
	貸室アドバイザー	6人	一部講師、助手兼務、ローテーション勤務
	助手	1人	

②□勤務体制について
センター長は月3日その他随時必要時、所長は週3日出勤。各講座指導部門では、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務とし、講座運営に支障のないようにする。事務部門では、毎日2人以上のローテーション勤務体制とする。
・職務分担表の作成、徹底により、効率的な業務遂行を行う。

エ 施設見学等への対応について

[取組内容] ①施設見学等への対応	[達成指標] ①・施設見学や施設撮影、取材等について、利用者の妨げにならない範囲で、積極的に対応する。
----------------------	--

オ その他の運営目標について

[取組内容] ①陶芸知識・情報の基地化を進める ②自主事業での優遇制度の実施	[達成指標] ①●横浜市陶芸センター、緑の協会、三溪園等、共催の陶芸祭を開催する。 ・陶芸図書貸出システム、陶芸ライブラリーの蔵書補充とPRの強化により、内容の充実を図る。 ・陶芸作家や美術館を訪ねる陶芸センター企画の見学会を立案、実施する。 ・外部講師を招聘しての講義、実演イベントを立案、実施する。 ②・介護ボランティアいきいきポイント事業への協力、濱ともカード事業への協賛等、市の事業への協力の中で、講座の割引や無料提供を行う。
--	--

(3) 管理について

ア 保守管理業務について

[取組内容] ①施設の適切な保守管理 ②設備の適切な保守管理	[達成指標] ①□毎日の見回り点検により、適切な維持管理を行う。そして、早期に修繕箇所を発見し、市に報告するとともに対策を検討する。 ②□空調機器定期点検を年2回行う。 ・日常使用していく中で、不具合、異常がないか常にチェックし、管理を徹底することにより、事故を未然に防ぐ。
--	--

<p>③備品等の適切な保守管理</p>	<p>□粘土や釉薬を直接下水に流さず、下洗い箱を設け一度沈殿させたうえ、上水だけを流すよう毎日の作業として徹底する。</p> <p>□排水溝、枡の掃除を年2回実施し、枡の増設、改修後の汚泥量を引き続き記録するとともに、適切に汚泥処理をする。</p> <p>③□陶芸窯の安全な運用のため、毎月1回の点検のほか年1回の定期点検を行う。</p> <p>□全ての焼成の焼成管理表を作成し、適切な焼成管理を行う。</p>
---------------------	---

イ 環境維持管理業務について

<p>[取組内容]</p> <p>①施設を清潔に、そして安全な状態に保つ努力</p> <p>②廃棄物の抑制と適正な処理</p>	<p>[達成指標]</p> <p>①□清掃業務は清掃業者に委託し、毎日清掃と年2回の定期清掃を行うとともに、建物周辺の美観維持のため、草刈り等適宜手入れをする。</p> <p>②□使用済み粘土、削りかす粘土、使用済み釉薬は、出来るだけ再利用するため分別回収箱を設けるなど、毎日適切に管理する。</p> <p>□再生を基本とし、廃棄物を最小限に抑える努力をするが、最終的に再生できない粘土や釉薬は産業廃棄物として、横浜市ルート回収にて適正に廃棄する。管理状況を月1回チェックする。</p>
---	---

ウ 保安警備業務について

<p>[取組内容]</p> <p>①適切な保安警備業務の遂行</p>	<p>[達成指標]</p> <p>①・施設の保安警備業務は警備業者に委託し、24時間警備を行う。(機械警備)</p>
------------------------------------	--

エ 公園管理業務について

<p>[取組内容]</p> <p>①適切な公園管理業務の遂行</p>	<p>[達成指標]</p> <p>①・公園内にある施設ということを常に意識し、環境維持に努めるとともに、本牧市民公園指定管理者との連絡調整を行う。</p>
------------------------------------	---

オ 防災等について

<p>[取組内容]</p> <p>①防災等への適切な対応</p>	<p>[達成指標]</p> <p>①□利用者も含めた避難訓練を年2回実施する。</p> <p>・職員、講師に対し、防災マニュアル、緊急連絡網を確認、対応の徹底を図る。</p> <p>・陶芸窯の焼成について、スタッフの安全教育、防火管理を徹底し、防災用品を準備、備蓄する。</p>
----------------------------------	---

カ 緊急時の対応について

[取組内容] ①緊急時の対応	[達成指標] ①・事件、事故、災害等の緊急事態が発生した場合は、ただちに必要措置をとるとともに、市と協力して適切に対応する。
-------------------	---

キ 光熱水費の削減努力について

[取組内容] ①光熱水費の削減への取組	[達成指標] ①・電力、水、ガスの使用量について、記録、分析し、光熱水費の削減に努める。
------------------------	---

(4) 収支について

ア 経費削減の努力について

[取組内容] ①経費削減の努力	[達成指標] ①・貸室アドバイザーの社員兼務、助手シフトの工夫による事業費の削減と、消耗品、事務用品の節約による事務費の削減に努める。 ・教室運営にかかわる補助的作業や修繕について、出来る範囲のものは職員の作業により、経費抑制を図る。
--------------------	---

イ 指定管理料のみに依存しない収支構造の検討について

[取組内容] ①指定管理料のみに依存しない収入構造の検討	[達成指標] ①・自主事業の受講者を効率的に獲得し、受講率を高めることにより、事業収入の増加を図る。 ・外部との共催講座等の事業企画を立案し、実施する。 ・陶芸センター独自の記念品グッズの開発、販売に向けて、実現の可能性を探る。
---------------------------------	---

(5) その他について

ア 日報及び月報の作成・管理について

[取組内容] ①日報、月報の作成と管理	[達成指標] ①・日報、月報を作成・管理する。 ・日常業務の中でPDCAサイクルを推進することにより、短いサイクルでの早い対応ができるよう、努力する。
------------------------	---

イ 業務計画書及び業務報告書の作成・管理について

[取組内容] ①業務計画書、業務報告書の作成と管理	[達成指標] ①・業務計画書及び業務報告書について、定められた様式に沿って作成、管理を行う。
------------------------------	---

ウー1 業務評価（モニタリングの実施）について

[取組内容]	[達成指標]
①モニタリングの実施による業務評価	①・モニタリングにおいて、利用状況、施設管理状況、問い合わせ・苦情等、毎月の管理運営状況について報告する。

ウー２ 業務評価（自己評価の実施）について

[取組内容]	[達成指標]
①自己評価の実施による業務評価	①・業務実績及び利用者の満足度や意見を基に、自己評価を行い、以降の業務改善につながるよう努める。

ウー３ 業務評価（第三者による評価の実施）について

[取組内容]	[達成指標]
①第三者評価の実施による業務評価	①・業務評価にあたり、外部評価委員会による第三者評価が実施される場合は、横浜市の指示に従い対処する。

エ 保険及び損害賠償の取り扱いについて

[取組内容]	[達成指標]
①保険の加入と損害賠償への対応	①・賠償責任保険、動産総合保険、レジャー・サービス費用保険に加入し、契約書および保険証書の写しを市に提出する。

オ 法令の遵守と個人情報保護について

[取組内容]	[達成指標]
①法令の遵守と個人情報保護への取組	①・法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取り扱いを適正に行い、事故のないように努める。

カ 情報公開への積極的取組について

[取組内容]	[達成指標]
①情報公開への積極的取組	①・情報公開規程にのっとり、情報開示請求等に対し、適切に対応する。 ・業務計画書、業務報告書をはじめ、施設運営情報等をホームページで公開していく。

キ 市及び関係機関等との連絡調整について

[取組内容]	[達成指標]
①市及び関係機関との連絡調整	①・月次モニタリングにて業務の報告、確認を行うが、重要な案件、緊急な案件については、随時市に報告・協議し、円滑な業務遂行を目指す。

ク その他の留意事項について

<p>[取組内容]</p> <p>①その他留意事項への対応</p>	<p>[達成指標]</p> <p>①・許認可及び届出等の手続について、必要な場合、これを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の目的外使用の手続について、自動販売機他必要な場合、これを行う。 ・名札の着用について、施設職員はこれを実行する。 ・人権の尊重について、職員に対し人権に関する研修を年 1 回実施する。 ・近隣対策の実行について、管理・運営上の近隣への迷惑行為には充分留意し、対策を講じる。 ・書類の管理について、施設の竣工図等重要書類を適切に管理する。 ・行政機関が策定する基準等の遵守について、これを行う。 ・法律の制定及び改正への対応について、これにより今後業務が発生した場合、市と協議のうえ対応する。
-----------------------------------	---

5 収支予算額について

収支予算書

(単位：円)

項目	予算額	備考
収入		
指定管理料収入	18,636,000	横浜市より
利用料金収入	4,200,000	貸室利用料、貸室焼成料
事業収入	18,750,000	自主事業収入（自主事業教室、粘土代等）
その他収入	650,000	自販機売上手数料等
合計	42,236,000	

支出		
人件費	11,800,000	給与、法定福利費、通勤費等
管理費	5,900,000	修繕費、水道光熱費、施設管理費等
（内訳）修繕費	1,200,000	修繕、メンテナンス
燃料費	400,000	LPガス、灯油
光熱水費	1,600,000	電気、水道
施設管理費	2,700,000	清掃、警備委託管理
事業費	18,211,000	粘土等商品仕入れ、講師報酬および交通費等
事務費	6,325,000	広告宣伝費、通信費、消耗品費、事務用品費、消費税等
合計	42,236,000	

収支計	0	
-----	---	--

【別紙】平成27年度自主事業一覧

1 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援

No	事業タイトル	主催 共催	会場	事業内容	実施時期	入場 見込み	事業費
1	一日体験教室 □手びねり、絵付 □電動ろくろ	主催	講座用教室	初めて陶芸を楽しむ方のための教室。当日飛び込みの参加にも対応。 □手びねり年16回16日開催 □電動ろくろ年10回10日開催	4月4, 11, 18日	手びねり 360人 電動ろくろ 140人	手びねり 540千円 電動ろくろ 350千円
					5月17, 24, 31日		
					6月6, 13日		
					7月4, 11日		
					9月6, 13, 20日		
					10月3, 10日		
					11月8, 15, 22日		
					12月6, 13, 20日		
					1月		
					2月21, 28日		
					3月12, 19, 26日		
2	親子陶芸教室	主催	講座用教室	親子で一緒に作陶し、手びねりによる器をそれぞれ1個制作。 年間18回、18日開催	5月2, 3, 4, 5, 日	700人 (350人)	1,225千円
					7月18, 19, 20, 21, 22, 24, 25, 26, 27, 28, 30, 31日 8月1, 2日		
3	陶芸祭手びねり体験教室	主催	講座用教室及び貸室	陶芸祭期間中開催。どなたでも参加可能。 年間1回、4日開催	11月1～4日	70人	70千円
4	陶芸祭ロクロ体験教室	主催	講座用教室及び貸室	陶芸祭期間中開催。小学生高学年以上対象。 年間1回、4日開催	11月1～4日	50人	100千円
5	陶芸祭楽焼	主催	前庭	素焼作品に色を塗り、1時間程度で焼成。 年間1回、4日開催	11月1～4日	50人	50千円
6	手びねり初級教室	主催	講座用教室	初心者対象。基本的技術を学び、成形の楽しさを体験する。 年間3回、24日開催	4月3日～5月29日(8日間)	500人	806千円
					6月1日～8月3日(8日間)		
					11月12日～1月14日(8日間)		
7	手びねり中級教室	主催	講座用教室	陶芸経験者対象。蓋物、注ぎ口のあるものなどの制作や装飾技法を学ぶ。 年間3回、24日開催	6月5日～8月7日(8日間)	580人	935千円
					8月31日～10月26日(8日間)		
					1月21日～3月17日(8日間)		
8	電動ロクロ初級教室	主催	講座用教室	初心者から土練りができる方対象。粘土引き上げを習得し、基本的な筒状のものを制作。 年間3回、21日開催	4月4日～5月23日(7日間)	450人	970千円
					8月28日～10月16日(7日間)		
					11月16日～1月11日(7日間)		
9	電動ロクロ中級教室	主催	講座用教室	簡単なロクロ引きができる方対象。袋物、蓋物等より高度なロクロ技術を学ぶ。 年間3回、21日開催	5月27日～7月15日(7日間)	400人	863千円
					11月6日～12月25日(7日間)		
					1月16日～3月5日(7日間)		

10	自由作陶教室	主催	自由作陶教室	決められたカリキュラムはなく、講師の指導を受けながら、自分のペースで作陶が楽しめる。1週1回半日単位で12回のコース。 年間350日開催	4月1日～3月31日	7,600人	8,170千円
11	第2自由作陶教室	主催	講座用教室	講座内容は自由作陶教室と同じ。講座用教室を利用し、火曜日のみ開催。 年間48日開催	4月1日～3月31日	1,400人	1,505千円

2 市民の主体的な作陶活動の支援

1	電動ロクロ水挽き徹底教室	主催	講座用教室	基本的な形の水挽きからより高度な技術まで、各自のレベルに沿って徹底的に練習するコース。 年間3回、12日開催	5月9日～5月30日(4日間) 10月1日～10月22日(4日間) 3月7日～3月28日(4日間)	200人	320千円
2	絵付け教室	主催	講座用教室	絵付けの入門コース。上絵付け、下絵付けなどそれぞれテーマを決めて開催。 年間2回、6日開催	9月2日～9月23日(3日間) 3月6日～3月27日(3日間)	100人	267千円
3	特定のやきもの作り教室	主催	講座用教室	土鍋、備前焼、サヤ鉢焼成、楽焼などそれぞれ特定のやきもののテーマを決め開催。 年間2回、8日開催	4月13日～5月11日(4日間) 1月20日～2月17日(4日間)	200人	430千円
4	還元焼成講座	主催	—	貸室や自由作陶教室で作成した作品の還元焼成知識習得と還元焼成体験。 随時開催	随時	—	800千円
5	大物焼成講座	主催	—	貸室や自由作陶教室で作成した大物作品を、限定定員毎月2名で焼成。 随時開催	毎月2回	24人	116千円

3 市内の公益的作陶活動に対する支援

1	陶芸指導者研修講座	主催	講座用教室	学校や福祉施設などの陶芸指導者の方を支援するための陶芸基礎講座。 年間1回、1日開催	8月5日	20人	40千円
2	団体教室	主催	講座用教室	各団体の要望に応じ個別教室を設定して、陶芸に親しんでもらう教室。 随時開催	随時	480人	480千円